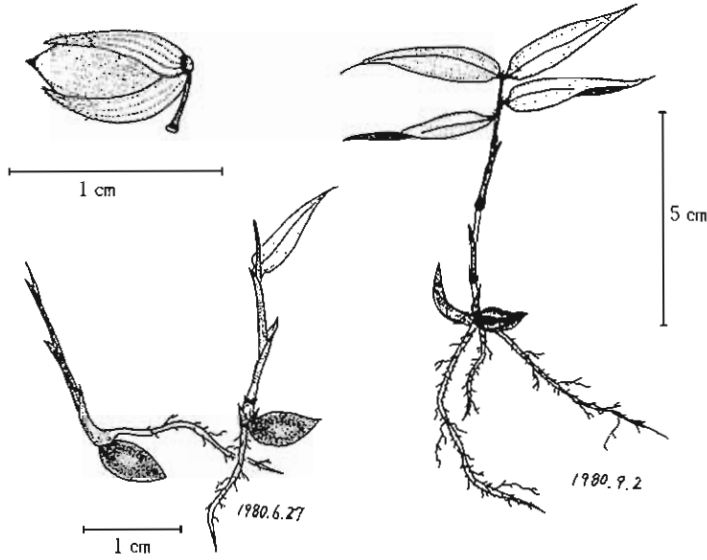


樹木だより

クマイザサの発芽



昭和54年の8月上旬、光珠内町にある専修短期大学の裏山で、クマイザサの種子を採取した。種子は花穎(かえい)と内花穎に包まれており、ムギのそれに似ている。粒数は10cc当りで151粒、10g当りで379あった。

このササの発芽状態を観察してみようと思い、同年9月に火山砂を詰めたコンテナに780粒の種子を播き、乾燥防止のためにワラをかけた。

55年の6月中旬になってようやく緑色した小さなささの子がつぎつぎに顔を出しはじめた。9月初旬には新ササの秆長が6cm程になり、本数は120本もあった。この頃になると、ササの基部には当年生の秆よりかなり太いささの子(冬芽)がすでに形成されている。

ところで、種子を採取した場所では新ササの発生がみられなかった。落下した種子は腐敗したり、野ネズミにでも食べられたのであろうか。

(自然保護科 嘉戸昭夫)